文化の風 南から

枕崎の芸術・文化の各分野で活躍している方々のエッセイを毎月紹介します。

魅惑の「風の芸術展」

東慎一郎(42)
ひがし・しんいちろう

鹿屋市出身、緑町在住のイラストレーター。MOD CRAFT代表。今年の「KKBふるさとCM大賞」では技術監督として準グランプリ獲得に貢献。音楽にも精通していて、小学生ハーモニカグループ「にわびよ」をプロデュースする。

今から20数年前、画学生だった。大学内のアトリエに画架を構え、現代絵画とは何なのか、絵画史の中での僕らの居場所は、現代絵画はどこへ行こうとしているのか、もしかしたら、ポストモダンは表現の自由を求める中で行き場を失っているんじゃないだろうか・・・等と、学友と口角泡をとばしながら絵筆をふるったり、酒を飲んだりしていた。

そんな中、枕崎で現代美術展が開催されるという。大賞賞金２００万で世界公募。賞金が出る美術展は非常に珍しかったし、金額が3桁なんていうのは世界を見渡しても「破格」だった。近場で開催される「破格の美術展」に同級生はおろか先輩達も色めきたった。

当時、現代絵画展としては「安井賞展」「上野の森美術館展」が有名だったと記憶している。両方とも東京で開催され、出品はおろか見に行くこともかなわない。何せ制作するだけで何万もかかるのに、それに加えて出品料が数万円、絵の運送費用に十数万円かかるのだ。画材代の捻出ができずに、近くのホームセンターで安い板や木切れを買い込み、ペンキを使って制作をしている学生にとって出品は夢のまた夢。しかし、枕崎であれば、制作費用と出品料さえどうにかすれば、あとは自力で持っていけるではないか。大学を卒業して就職したばかりの先輩が訪ねてきた。「就職したばかりで金がないのだが、是非、出品したい。卒業生何人かでレンタカー代を出すから枕崎まで作品を搬入してくれないだろうか。どうせ、お前も出すんだろ?」これで運送費用が浮いた。作品制作費と出品料だけを何とかすればいい。

近くの画材屋に申し込み要項を取りに行く。展示会名は「風の芸術展」。ベニア板とペンキ、石膏、ラッカーを買い込み制作を始める。金銭的な理由で出品作品は1点。先生からは「公募展には必ず複数点出しなさい」と言われていたが無い袖は振れない。1点だけの出品だと知られたら間違いなく叱られるだろう。だから、夜中にアトリエに入って朝方まで絵筆を振るい、先生が出勤する直前に絵を隠し寝るという生活を続けた。出品前はアドバイスが欲しかったが仕方が無い。大賞でもとった暁には、笑って許してくださるだろう。若さとは恐ろしい。当時は本気で「大賞賞金は僕のものだ」と妄想しながらの日々だったのだ。身の程知らずも甚だしい。

枕崎という地名は僕の中で急速に身近なものになっていった。世界レベルの芸術展が開催できる「枕崎」とは、どんな地方都市なのだろう。美術館があり公募展を開催できる風土とはどんなものなのだろうか。

早朝、トラックを借りに行き、先輩方の作品と共に枕崎へ向かった。駐車場にトラックを止めて周囲を見渡す。木造の円形の建物。街の遠景には東シナ海。昼間なのに風の音が鮮明に聞こえる静かな街というのが枕崎の第一印象。搬入を終え、大賞を獲ったらまたここに来ることができるなと不遜なことを考えながらの帰路だった。

搬入を終え体はヘトヘトだったが、先輩達と労をねぎらって騎射場で一献。睡眠不足と作品を作り終わった変なテンションで一献で終わらなかった。多分、先輩達も皆「自分が大賞を獲る」つもりだったのだろう。飲みながら「２００万円の使い道」で盛り上がったから。

後日、葉書がポストに投函された。落選。その日の夜にアトリエに先輩方もやってきた。全滅。悔しくて、また騎射場で酒。全滅ってどんな公募展なんだ?と。当然、一杯で終わるわけもなく。

枕崎までトラックを走らせた。希望に満ちた往路と異なり復路は何て惨めなことか。全国公募展で入選する先輩ですら入選できなかった「風の芸術展」。必ず見に行こう。

確か出品者は入場チケットを無料で一枚貰うことができた。短期間で3度目の枕崎。作品群を見てきた。短期間で3度目の枕崎。作品群を見て打ちされたのは言うまでもない。

20年経って、僕は今、枕崎に住んでいる。最近、どうして枕崎で「世界届指のレベルの美術展が開催されたのか」という疑問の答えらしきものが見えてきた。詳しくはまたいつの日か。

新刊紹介

●光圀伝
冲方 丁(著)

○魔術
芥川龍之介(作)

注目本

●めぐみと私の３５年
／横田 早紀江(著)

○へんしんおんせん
／あきやま ただし(作・絵)

●一般書　○児童書

ホームページ（市からのお知らせ）に、すべての新着本の情報を掲載しています。ぜひご利用ください。
※図書館内掲示板（玄関前）、１・２階カウンターの新着本リストでもすべてご覧いただけます。

家族のキズナ本展

「家族愛」をテーマに本を集めた「家族のキズナ」本展を開催中です。
期間　11月16日(火)まで

おもかげ復元師の震災絵日記
笹原 留似子(著)

東日本大震災発生後まもなく沿岸地域に入り、大きな損傷を受けた300人以上の遺体を生前の姿に戻す「復元ボランティア」に献身した女性納棺師が、やさしいタッチで描いた亡くなった方の似顔絵と、その遺族とのやりとり。

おかあちゃんがつくったる
長谷川 義史(著)

おかあちゃんは、ぼくの欲しいものを何でもミシンで作ってしまう。でも、作ってくれるものはちょっとかっこわるい。ある日、ぼくが父親参観のお知らせをもらってくると…。あったかくて、せつなくて、でも笑える家族の物語。

※ ほかにも多数展示しています。

図書館だより No.247

市立図書館　72-9254
★開館時間 9：30～18：00

カレンダー　11月10日～12月9日

日	月	火	水	木	金	土
					11月	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9						

12月

□休館日　○おはなしのへや 午後３時～（絵本と紙芝居の読み聞かせ）

■枕崎弁「謎掛け」の答え…ハシゴをしたい クダを巻(め)だいすっ（はらがわあんちゃん）

クイズ！カツオぞりゾル

■秋になると、火の神沖に落ちる大きな夕陽が見事ですよね。さて、このように水平線に落ちて歪んで見える夕陽のことを俗に何と呼ぶでしょう。

①メダマ　②ダルマ
③メダル　④ダイヤ

【先月の答え】①サバ科

今月のプレゼント

焼酎「天地一杯」(３名様)
【提供】まちの駅南薩ブロック連絡協議会

まちの駅南薩ブロック連絡会の会員が芋の苗植えから収穫、仕込みまで行い丹精込めてつくったオリジナル焼酎です。<関連記事９ページ>

お便り紹介

「アート&キャンドルフェスタ」と同時開催の「SHOW-1グルメグランプリ」で「枕崎鰹船人めしSP」が1番になるよう祈っています。(西本町・スイッチー・50・男性)

スイッチーさん、おやっとさぁです。前回優勝から更に改良を加えた「枕崎鰹船人めしSP」。連覇に期待がかかりますね。そん為には、枕崎市民が一丸となってイベントに出張って行って、盛り上げんなすまんですね。11月中の地方大会はもちろん、2月23・24日の本大会にずんばい票が集まっご、気張ってPR活動もして行がんなら。

●●●

広報をいつも楽しく見ています。いろんなことが分かってありがたいです。クイズも大好きで、すぐ答えを書いています。(住吉町・83・男性)

あいがともさげもす。老若男女ねっかいの皆様に、楽しく読みやすい紙面を作る為には、皆様からお寄せいただくお便りが、ないよっけんな励みになっですがよ。カツオドリのクイズん答えがわかってん、わからんでん、どしどしお便りを書いて送ってくいやいな。待っちょいもんでな。

●●●

両親が鹿児島出身で、父親が枕崎です。珍しい苗字のおかげで、交友関係も広がり、仕事でもすぐ覚えてもらえます。田舎のことが手に取るようにわかる「広報まくらざき」。家族で大ファンです。(神奈川県・白波好き娘・26・女性)

白波好き娘さん、神奈川県からわざわざ、あいがともさげもす。わっかおなごんしから、お便りをもろがなっつわ思どらんかったで、なんだがづっくらえ。広報で見いよっかいも、数倍みごっか景色、うんまか料理、やさっかん人に会いにあそんけ来やいなぁ。(読みづらいことを承知で書かせていただいております。ご両親に通訳をお願いしながらお読みください。)

★**応募方法**　ハガキもしくはメールにて、氏名・ペンネーム・住所・電話番号・年齢・性別・クイズの答え・本紙へのご意見やご要望、枕崎への想いや身近にあった出来事などを記入の上応募ください。いただいたお便りは、ご紹介させていただく場合があります。文章は添削させていただく場合があります。

★**応募先**　〒898-8501　枕崎市千代田町 27 番地「枕崎市役所総務課秘書広報係」宛
E-mail：koho@city.makurazaki.lg.jp
★**応募締切**　11 月 30 日(金)　※当日消印有効
★**当選発表**　当選者には総務課秘書広報係から連絡します。賞品を同係まで取りにきてください。
★**問合せ**　総務課秘書広報係 TEL72-1111(内線 211)

枕崎弁『すんくじら狂句』

●兼題「月」

立神様と　二人で見ちょっど　台場ん月（アメボケさん）
(唱) いっの項がい　チングごわひか

チング…韓国語で親友のこと。昔、ふなどん衆が伝えた言葉

夕立の　あとの轍に　映ゆる月（イチガンレフさん）
車の通ったタイヤのあとに映る月はどんな軌道と形を描くのであろうか、雨水が乾くまでの小閑。

耳取と　全望競う　遠見番（きゅぞっ子）
(唱) ひと月遅れっ　見台(兼題)に立ち

うわん空　澄んで徒然のぉ　ないもした（アキゾラ）
(唱) 青一色で　かえっちゃだっけな

ひとげぇん　子にも泣がさるっ　運動会（ニヤケル）
(唱) あよ～ぉあよ～おの　声がたなびっ

唱＝ちゃんサネ♪

謎掛け

「酔ぐろじんべ」とかけて
なんととく
「消防士」ととく、
そのこころは？
※右ページ左下に答え

■来月号の兼題は「なっべ(泣きべそ)」、投稿は総務課秘書広報係TEL72-1111(内線211)

南溟館 イベント情報

開 9:00 ～ 17:00
※入館は 16:30 まで
休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
問 TEL72-9998

南溟館開館 25 周年記念 日展鹿児島会枕崎展

県内に在住する日展出品者で組織され、今年20周年を迎えた「日展鹿児島会」の地方巡回展。南薩では初の開催で、日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の５部門から73点を展示します。
●**会期** 11月10日(土)～25日(日)
●**会場** 南溟館(全館展示)
●**観覧料** 一般・大学生300円(前売券200円)、高校生以下無料
●**主催** 枕崎市、枕崎市教育委員会、日展鹿児島会

MOA 美術館児童作品展

MOA美術館(静岡県)主催の全国児童作品コンクールで入賞入選した南薩地区の子どもたちの絵画、書道の作品を展示します。
●**会期** 11月28日(水)～12月2日(日)
●**会場** 南溟館(市民ギャラリー)
●**観覧料** 無料
●**表彰式** 12月2日(日)　午後10時～、南溟館(第２展示場)

南薩地区秀作展 ～第 67 回南日本美術展から

鹿児島市で開催される第67回南日本美術展から川辺・指宿地区関係作家の作品を展示します。初日には作品鑑賞トークも行います。
●**会期** 12月2日(日)～16日(日)
※作品鑑賞トークは午後２時～
●**会場** 南溟館(第１展示場)
●**観覧料** 無料

星野もえ作品展 ～花と妖精の宝石箱

樹脂粘土作家、星野もえさん(鹿児島市出身)による作品展。
●**会期** 12月2日(日)～16日(日)
●**会場** 南溟館(市民ギャラリー)
●**観覧料** 無料